

小学部国語科 2 グループ 学習指導案

日 時 : 9月18日(木) 2校時
場 所 : 小学部1・2年教室
児 童 : 小学部1・2・3・6年生 5名
指導者 : 齋藤美海(T1)、渡邊芽生(T2)
山中来実(T3)

1 単元名 めざせ！ことばマスター

2 単元の見目標

- (1) 日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、言葉カードや視写、なぞり書きで表す。
(知識・技能)
- (2) 日常生活や授業で使う動作を見て、合っている言葉を選択して伝える。(思考・判断・表現)
- (3) グループの友達と一緒に、問題の出題や解答をしようとする。(学びに向かう力・人間性等)

3 児童と単元

(1) 児童について

本学習グループは、小学部1年生・3年生・6年生が各1名ずつ、2年生が2名の計5名で構成されている。言葉による指示を理解して活動に取り組むことができるが、集中力が持続せず、友達の様子が気になって指示を聞き取ることができない場面が多い。そのため、注意が教師に向くまで待つことや、1対1で個別の言葉掛けをする必要がある。また、初めての活動に苦手意識をもち、取り組むまでに時間が掛かることがある。言葉カードを使った活動や体を動かす活動が好きで、進んで取り組む姿が見られる。日常生活では、気持ちをうまく伝えられずに手が出てしまうことや、話したい気持ちが強く間違った関わりをしてしまうことがある。

国語科としては、発語や読字に実態差があるグループである。5名のうち3名は友達や教師と会話をすることが好きで進んで話そうとする姿が見られる。1名は、知っている言葉や繰り返し学んだ言葉を自分から話すことができる。他1名は自発的な発語はないが、教師と一緒に短い発声をし、身振りや指さしで要求や意思を伝えることができる。読字の実態は、5名のうち3名が文字を見て発声することができる。1名は1文字ずつ指で追いながら読むことができ、他1名は1文字ずつでも読むことが難しい。5名とも言葉をまねして話すことが得意で、聞いた言葉をまねして発することができる。また、興味関心の幅が狭いため語彙が少なく、言葉を知っていても使い方を間違っていることがある。例えば、2年男子1名は簡単な単語を話すことができるが、扉を閉めてほしいときに「開けて」とお願いするなど、言葉を知っていても使う場面を誤っていることがあった。

(2) 単元について

本単元では、日常生活や授業で使う物の名前や物を使った動作の言葉を学習する。本グループの児童は言葉を見聞きしても記憶が断片的になりやすく、覚えにくい特徴がある。そのため、具体物と言葉、動作と言葉を一致させる活動を設定することで、言葉の定着につながると考えた。言葉は日常生活や他の教科の授業で使うものを取り上げ、小単元に分けて計画する。「せいかつのことば」では「しぼる」「すてる」という動作の言葉を学習した。具体物を使って学ぶことで、動作と言葉をマッチングしやすくなっていた。また、体を動かしながら学習することで、楽しく言葉を身に付けることができる単元となっている。「ものづくりのことば」では紙粘土を教材とし、形を作りながら動作の言葉を学ぶことで、制作を楽しみながら言葉を身に付けることができるように工夫する。さらに、聞き取った情報の方が覚えやすい児童と、視覚的な情報の方が覚えやすい児童がいるため、教師の言葉をまねして話す場面と言葉カードで表す場面の両方を設定する。そうすることで、一人一人が得意な方法で具体物や動作と言葉を一致させることができると考える。

このように、動作の言葉を学ぶことで、使える言葉を増やし、気持ちを正しく伝えることや受け取ることにつながると期待できる。また、音楽や体育などで使う言葉を取り上げることで、他教科でも学びを発揮することができる。そして、日常生活や教科の学習の際に「ぞうきんを濡らした後はどうしますか」「粘土で丸はどのように作りますか」などと動作の言葉を考えるきっかけになる問い掛けをすることで、本単元の学びを身近な生活場面で生かし、学びの実感や発揮につながると考える。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・児童が見通しをもって取り組めるように、学習の流れを同一にしながら取り上げる題材（動き）を変えていく。（主）
- ・児童が本時を通して集中して取り組めるように、体を動かして課題に取り組む場面を設定する。（主）
- ・児童が達成感を感じられるように、学習の成果を全体で振り返る場面を設定する。（主・深）
- ・学んだことを生活や他の学習と結びつけることができるように、本時の最後に〇〇タイムとして動きながら学習した言葉を個人で復習する場面を設定する。（主・深）

〈場の設定、教材・教具〉

- ・児童が自分で学習に取り組めるように、実態に即した書字プリントを用意する。（対）
- ・児童が動画で振り返ることができるように、i P a dを使用する。（深）
- ・電子黒板や教師の指示、活動に集中できるように、座席配置を工夫する。（主）

〈教師の働きかけ〉

- ・児童が頑張りや達成感を感じられるように、即時的な評価を行う。（主・深）

4 指導計画（総時間数 32時間）

単元題材名、学習内容	目標	時数	関連する学習指導要領の項目
〇めざせ！ことばマスター ～せいかつのことば～	<ul style="list-style-type: none"> ・「～をふく」や「～をかける」などの動作の言葉を知り、視写やなぞり書きをする。（知・技） ・生活で使う動作を見て、動作に合う言葉を選択する。（思判表） ・グループの友達と一緒に、生活の動作の言葉について問題を出し合い、解決しようとする。（学、人） 	8時間	<p>【目標】</p> 1段階 イ、ウ 2段階 ア、ウ
〇めざせ！ことばマスター ～ものづくりのことば～	<ul style="list-style-type: none"> ・「～をこねる」や「～をちぎる」などの動作の言葉を知り、視写やなぞり書きをする。（知・技） ・遊びや図工で使う動作を見て、動作に合う言葉を選択する。（思判表） ・グループの友達と一緒に、遊びや図工の動作の言葉についての問題を出し合い、解決しようとする。（学、人） 	8時間 (本時5/8)	2段階 ア(イ)(ウ) イ(ウ)② A 聞くこと・話すこと イ B 書くこと イ
〇めざせ！ことばマスター ～おんがくのことば～	<ul style="list-style-type: none"> ・「～をたたく」や「～をならす」などの動作の言葉を知り、視写やなぞり書きをする。（知・技） ・音楽で使う動作を見て、動作に合う言葉を選択する。（思判表） ・グループの友達と一緒に、音楽の動作の言葉についての問題を出し合い、解決しようとする。（学、人） 	8時間	
〇めざせ！ことばマスター ～たいいくのことば～	<ul style="list-style-type: none"> ・「～をまたぐ」や「～をなげる」などの動作の言葉を知り、視写やなぞり書きをする。（知・技） ・体育で使う動作を見て、動作に合う言葉を選択する。 	8時間	

	(思判表) ・友達と一緒に、体育の動作の言葉について問題を出し合い、解決しようとする。 (学、人)		
--	---	--	--

5 本時の計画（総時数 13 / 32）

（1）全体の目標

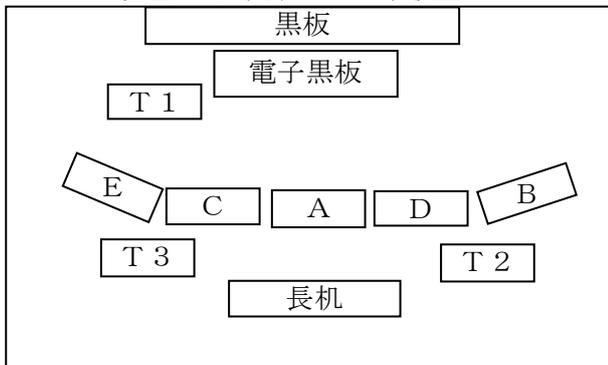
- ・「まるめる」「のばす」の動作を見て、動作に合う言葉を選択して伝える。（思判表）

（2）個別の目標

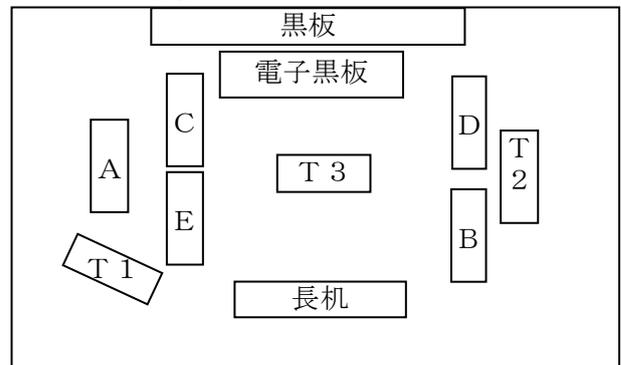
氏名	児童（生徒）の実態と学習の様子	単元（題材）の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】	本時の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】
A	簡単な指示を見聞きして行動することができるが、授業とは無関係の物を取り出す、文字カードの片付けをあえてゆっくり行うなどの注目行動が多く見られる。動作と言葉を一致させることが概ねできるが、曲を聴きながら手を叩くことを「歌う」と表現するなど、言葉を誤用していることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、言葉カードや視写で表す。（知・技） ・動作を見て動作に合う言葉カードを選択するとともに、出題者として正解を正しく伝える。（思判表） ・友達に対してすすんで問題を出題しようとする。（学、人） 【3-（1）】【6-（2）】	<ul style="list-style-type: none"> ・「まるめる」「のばす」の動作をして出題し、言葉カードを選択して正解を話して伝える。（思判表） 【6-（2）】
B	簡単な指示を見聞きして行動することができるが、集中力が切れやすく、聞こえていても行動することができないことがある。また、動作の言葉と行動が一致していないことがある。見通しがもてないことや苦手な活動があると、立ち歩いて机に登ることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、言葉カードやなぞり書きで表す。（知・技） ・動作を見て動作に合う言葉カードを選択し、話して伝える。（思判表） ・教師の言葉掛けを受けて出題者に注意を向け、解答しようとする。（学、人） 【3-（1）】【6-（2）】	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを受けて「まるめる」「のばす」の動作を見て、動作に合う言葉カードを選択し、話して伝える。（思判表） 【6-（2）】
C	簡単な指示を見聞きして行動することができるが、友達の様子が気になり、一回で見聞きすることができないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、言葉カードや視写で表す。（知・技） ・動作を見て、動作に合う言葉カードを選択し、話して伝える。（思判表） ・出題者に注意を向け、解答しようとする。（学、人） 【3-（1）】【6-（2）】	<ul style="list-style-type: none"> ・「まるめる」「のばす」の動作を見て、一人で言葉カードを選択し話して伝える。（思判表） 【6-（2）】
D	簡単な指示を聞いて行動することが概ねできるが、他のことに注意がそれてしまうことがある。発語が多く進んで話す様子が見られるが、「ハンガーをかけてください」という指示に対して「かける」とい	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、なぞり書きで表す。（知・技） ・動作を見て、イラストや写真を手掛かりに動作に合う言葉カードを選択し、話して伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まるめる」「のばす」の動作を見て、写真を手掛かりに動作に合う言葉カードを選択し、友達の言葉をまねして伝える。（思判表） 【6-（2）】

	う動作ができないなど、動作と言葉が一致しないことがある。	(思判表) ・イラストや写真を手掛かりに、友達と一緒に出題を聞き、解答しようとする。(学、人) 【3-(1)】【6-(2)】	
E	簡単な指示を見聞きして行動することができるが、友達が取り組んでいる様子を見てから動き出すなど、一人で課題解決をすることが難しい。物の名前と具体物を一致させることができるが、動作の言葉を聞いても動くことができないことがある。	・日常生活や授業で使う動作の言葉を知り、視写で表す。(知・技) ・動作を見て合っている言葉カードを選択し、教師と一緒に発声して伝える。(思判表) ・教師の言葉掛けをきっかけに出題者を見て、解答しようとする。(学、人) 【3-(1)】【6-(2)】	・「まるめる」「のばす」の動作を見て、動作に合う言葉カードを選択し、教師と一緒に発声して伝える。(思判表)【6-(2)】

(3) 配置図<小学部1・2年教室>



グループ活動



(4) 板書計画 (電子黒板を使用する) 小1・2年教室正面



(5) 参考資料 (教科書や教材等) 電子黒板に映すロイロノートの画面

①動画



②写真



③動画



④動画



⑤写真



(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、本時の目標の達成に関連した自立活動の区分、項目
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (5)	1 はじめの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢で挨拶できるように、姿勢を直すまで待ち、できている児童を称賛する。(T1) 	電子黒板 i P a d
	2 本時の学習の見通し (1) 名前を呼ばれたら返事をする。 (2) 本時の流れとめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって活動できるように、ホワイトボードに本時の流れを提示し、常に見える位置に置く。(T1)【2-(2)】 達成感をもちながら活動を進められるように、活動が終わるごとにホワイトボードに花丸を書く。(T1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> めあて うごきにあった、ことばをえらぼう！ </div>	ホワイトボード
9:50 (25)	3 動きと言葉 (1) 授業の準備をする。 (2) 本時で学ぶ言葉を知り、画面に映った言葉と同じ言葉カードを選ぶ。 (3) 全員で言葉に合った動作をする。 (4) グループで問題を出し合う。 (5) 動作に合った言葉を選んでいたら、動画で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 最後まで集中して取り組むことができるように、立って歩き、授業で使う紙粘土やボードを教室の長机に運ぶ場面を設定する。(T1) 意欲的に活動できるように、ゲーム性を取り入れ、本時で学ぶ言葉をミッションとして提示する。(T1) 言葉と動作を一致できるように、言葉に合わせて体を動かし、体験的に言葉を身に付けられる場面を設定する。(T1)【6-(2)】 友達の出題に注意を向けられるように、「問題が出されますよ」と言葉掛けをして静かになるのを待つ。(T2、T3) 児童Dが写真を手掛かりに言葉カードを選択できるように、カードの裏に動きに合った写真を貼る。(T1) 活動を振り返ることができるように i P a d で活動の様子を動画で撮影する。(T3) 課題解決できたことを実感できるように、動画で振り返る場面を設定する。(T1) 課題解決できたことが視覚的に分かるように、一人一人の顔写真の下に花丸カードを付けて称賛する。(T1) 	長机 言葉カード 紙粘土 粘土板 花丸カード
10:15 (12)	4 ものづくりタイム	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだ動きでものづくりをできるように、「まるめて作りましょう」「のばして作りましょう」と言葉掛けをする。(T2、T3) 	
10:27 (3)	5 おわりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 次時に意欲をもてるように、「次のミッションも成功できるように頑張りましょう」と言葉掛けをする。(T1) 	

(7) 評価

〈児童〉・動作を見て、動作に合う言葉カードを選択することができたか。

〈教師〉・学習に集中するための環境設定は適切であったか。

・動作と言葉を一致させるための手立てや学習活動は適切であったか。

(8) 個別の目標（本時）に関わる支援

児童生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て 【関連する自立活動の区分、項目】	支援を行う学習活動
A	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動に意欲的に取り組むことができるように、正解発表の際に使用する、ドラムロールが鳴るボタンを用意する。(T1)【2-(2)、3-(4)】 	3 動作と言葉(4)
B	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって活動できるように、ホワイトボードに本時の流れを提示する。(T1)【2-(2)】 選択した言葉カードを話して伝えられるように、教師と一緒に個別で解答を確認する場面を設ける。(T2)【6-(2)】 	1 本時の学習を見通す 3 言葉と動き(4)
C	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動で、友達を気にせずに問題を聞き、一人で言葉カードを選択できるように、他グループ友達のことが見えにくい座席配置にする。(T1)【2-(1)、3-(4)】 	3 言葉と動き(4)
D	<ul style="list-style-type: none"> 正解の手掛かりとなる友達の解答が聞こえるように、声の大きさ表を示しながら自分の適切な声の大きさを確認する場面を設ける。(T1、T2)【6-(5)】 	3 言葉と動き(2)(4)
E	<ul style="list-style-type: none"> 教師のまねをして言葉を発声して伝えられるように、言葉カードの文字を指さしながら一文字ずつゆっくり発声する場面を設定する。(T1、T3)【6-(2)、(5)】 	3 言葉と動き(4)

中学部 国語科 Aグループ 学習指導案

日 時：11月25日(火)2校時
場 所：中学部1・2年生教室
生 徒：中学部2年生 4名
指導者：吉田 翔一

1 単元名 言葉のめいたんてい②

2 単元の目標

- (1) 主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを使って2コマ漫画や写真を説明する文章をつくる。 (知、技)
- (2) 2コマ漫画の状況を相手に伝えるために必要な情報を考える。 (思判表)
- (3) 友達の考えた文章に興味をもち、自分との違いに気付き、取り入れる。 (学、人)

3 生徒と単元題材

(1) 生徒について

本学習グループは、中学部2年生の知的障害の生徒3名と病弱のためオンラインでの授業参加をしている生徒1名の計4名で構成されている。全員が言語での簡単な指示理解や書字ができる。昨年度からの変容として、「相手の人はどう思ったかな」や「これはこういう気持ちだ」など、自分や他者の感情への興味・関心をもつ姿が増えてきている。一方で、学習の振り返りを記す「キャリアノート」や作業日誌の目標の振り返りで「～頑張りました」や「～できました」などと目標の文末を定型で変えて書くことや同じ文末の文を繰り返し書くことが多く、学習をどのように感じたか聞かれると答えることができるが、「自分の気持ちを書くこと」や「いつ」「どこで」などの情報を書き加えることは少ない。また、文章やイラスト等から情報を読み取ることを苦手としており、主語と述語を正しく読み取ることや、他者の気持ちを考えることが難しいことなどが課題として挙げられる。自立活動の目標としても「自分の気持ちを伝えること」や「人とのコミュニケーション」に関する内容が挙げられている生徒が多い。

これらの背景として、生徒の実態に応じて差異はあるが、①主語と述語、「いつ」「どこで」などの文章を構成する基礎的な知識の不足から表現方法が定型の文章となってしまうこと、②気持ちという抽象的な概念の言語化が難しいこと、③生活経験の不足から語彙が不足しており、自分の伝えたいことを適切に表現することが難しいこと等が考えられ、話すことや文章をつくることへの自信のなさが考えを伝えることや文章で表現することへの苦手さにつながっていると考え、学習活動を設定した。

(2) 単元について

今年度は、語彙の拡充のためにイラストや写真から単語を探す学習や、簡単な説明文を読んだタイトルの考える学習等に取り組んできた。前単元「言葉のめいたんてい①～どんな気持ち?～」では、生徒の実態把握を基に小学校2年生の教科書に掲載されている物語文「スイミー」の読解に取り組んだ。文章から「楽しい」や「悲しい」などスイミーの気持ちを読み取る学習を行った。「悲しい」や「楽しい」などスイミーの立場に立って考えることができる生徒や、想像することが難しい生徒など多様な反応が見られた。

こういった学習を踏まえ本単元では、主語や述語、「いつ」「どこで」などの基礎的な知識や、2コマ漫画や自分の体験した学習を文章で表現する学習に取り組む。小単元の構成としては、導入として、主語や述語の使い方や気持ちを表す言葉についてなどを説明する。本時にあたる小単元では、学習内容の定着のため到達度に合わせて学習を積み重ねる。小単元の最後では、身に付けたことを生かす場面として次年度の1年生に学部行事を紹介するカードの作成を設定している。

本時の学習では、2つの学習活動に分けて授業の構成をする。前半は、2コマ漫画の内容を表現する学習に取り組む。2コマ漫画は、①イラストがシンプルでコマ数も少なく、情報を読み取る難易度が低いこと、②自分の経験と近い題材を使うことで自分への置き換えや実生活へのつながりが期待できること、③背景や表情など一部を変えることで文章を考える際の必要な情報の違いに気付くことや、個々に応じた学習課題を設定することができる。と考える。

後半では、前半で考えた2コマ漫画を説明する文を用いて、友達に自分の2コマ漫画はどれかを当ててもらおうクイズに取り組む。自分の考えた文章で友達に内容を伝える経験を積み重ねること、文章を考えることへの自信を身に付けることができると考えている。

以上のような学習を行うことで生徒が様々な文の表現方法を身に付け、自分の考えや感じたことを自分の言葉で表現することに自信をもてるようになる。さらに、総合的な学習の時間「みんなのためにプロジェクト」でのキャリアノートや作業学習の日誌の記入、他者とのコミュニケーションなど、学校生活の様々な場面で、学んだことを発揮、実感できると考え本単元を設定した。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・一つの課題時間が長くなりすぎないように、文章をつくる学習と自分の文章が相手に伝わるか確かめるクイズを出題するという2つの学習課題を設定する。(主・深)
- ・前時までに学んだことを振り返ることができるように、ロイロノートで「主語＝誰が」や「述語＝なにをした」など分かりやすい文章のポイントをまとめたカードを配付する。(主・対)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・学習に見通しをもつことができるように、毎時間同じ様式のワークシートを使用する。(主)
- ・必要なときに振り返ることができるように、黒板に学習した用語を掲示しておく。(深)
- ・自宅静養をしている生徒の学習機会を確保するために、iPadのアプリ「FaceTime」を使用してオンラインでの授業参加をできるようにする。

〈教師の働き掛け〉

- ・生徒が自分の考えや気付きを主体的に話すことができるように、「できていますね」「いいですね」などの肯定的な言葉を掛ける。(深)
- ・書くことに自信をもつことができるように、文法や字形に関する指摘は必要最小限にする。(主)
- ・オンラインで授業参加している生徒が学習に参加していることを感じることができるように、発言を促したり言葉を掛けたりする。
- ・一人で考えた成功体験を積み重ねることができるように、カードや板書を手掛かりにするよう言葉を掛ける。(主)

4 指導計画 (総時間数 16時間)

単元題材名、学習内容	目標	時数	関連する学習指導要領の項目
○言葉のめいたんてい② ～どうにゅう～ ・主語と述語、気持ちを表す言葉等のポイントの確認	・主語と述語、気持ちを表す言葉などの文章をつくるポイントを知る。(知、技) ・自分から吹き出しの内容を考え、考えた内容を発表する。(学、人)	2時間	【知、技】 小学部3段階 (オ) 【思判表】 書くこと 小学部3段階 イ、オ 中学部1段階 ウ、エ
○言葉のめいたんてい② ～ぶんづくり～ ・2コマ漫画の説明の文章づくり ・クイズ	・主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを用いて、2コマ漫画を説明する文章をつくる。(知、技) ・2コマ漫画の内容から、登場人物の心情を読み取り、考える。(思判表)	10時間 (本時8/ 10時間)	【知、技】 小学部3段階 (オ) 【思判表】 書くこと 小学部3段階 イ、オ 中学部1段階 ウ、エ
○言葉のめいたんてい② ～まとめ～ ・行事を説明するカードづくり	・主語と述語や気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」を用いて、行事を説明する文章をつくる。(知、技) ・友達の考えた行事を説明する文章の内容に興味をもち、自分との違いに気付く。(学、人)	4時間	【知、技】 中学部1段階 (オ) 【思判表】 書くこと 小学部3段階 ウ、オ 中学部1段階 ウ、エ

5 本時の計画（総時数 8 / 10）

(1) 全体の目標

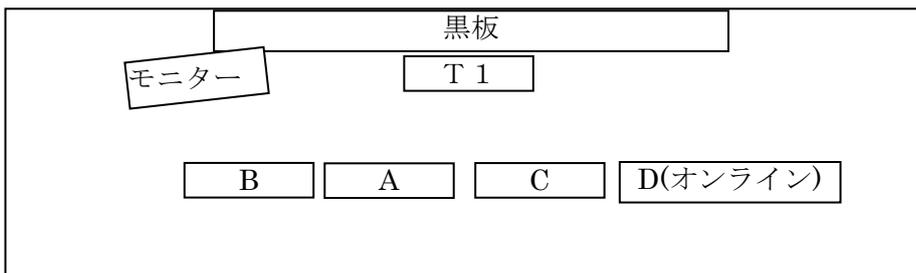
- ・主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを使って、2コマ漫画の内容を相手に伝える。(知、技)

(2) 個別の目標

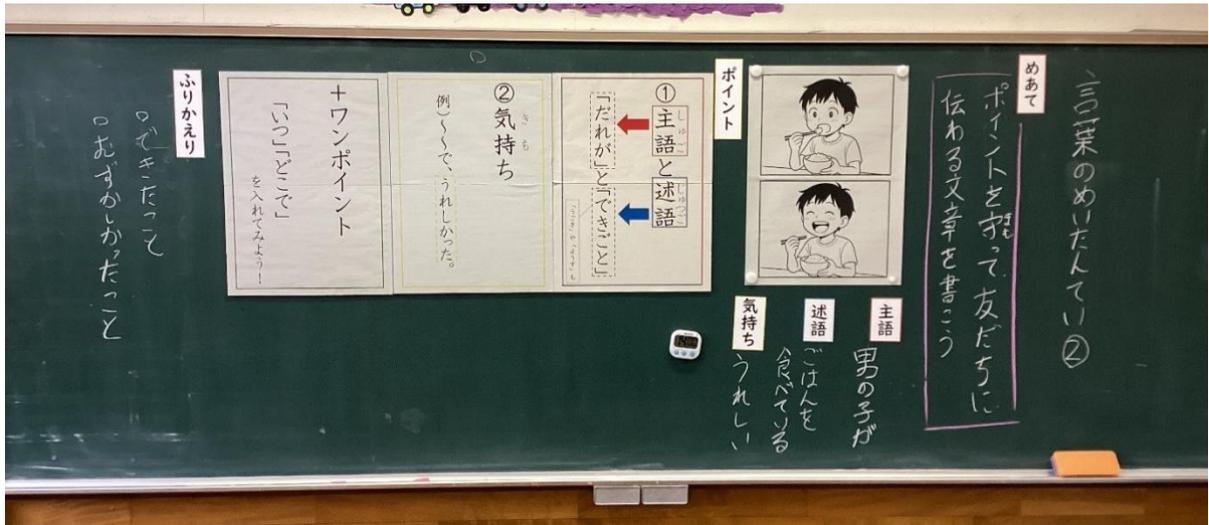
氏名	生徒の実態と学習の様子	単元の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】	本時の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】
A	<p>学習に対してとても意欲的に取り組んでいる。</p> <p>前単元では、スイミーの気持ちを適切に読み取ることができ、気持ちを考えることに自信が付いてきている。</p> <p>学習や作業学習の振り返りの場面では時間がかかるが、書きたい内容を整理できると、頑張りたいことや難しかったことを含めた振り返りができるようになってきている。</p> <p>文章が箇条書きになってしまい、「いつ」や「どこで」などの情報の整理が苦手である。</p> <p>また、弱視があり、板書を書き写す際には座席や字の大きさなどに配慮が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを用いて、2コマ漫画や写真を説明する文章をつくる。(知、技) ・2コマ漫画から、相手に伝えるために必要な情報を考える。(思判表) 【3-(1)、(2)】 ・友達の考えた文章の内容に興味をもち、自分との違いに気付く。(学、人) 【6-(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語、気持ちを表す言葉「いつ」や「どこで」を使って、2コマ漫画を説明する文章をつくる。(知、技)
B	<p>興味がない題材については消極的な発言が見られるが、見通しをもてることや興味のある内容については積極的に発言する。</p> <p>昨年度から他者の感情に関する興味が広がり、「○○さん、～だったかな」のように他者を気遣おうとする姿勢が増えてきており、前単元ではスイミーの気持ちを適切に読み取ることができた。</p> <p>語彙が豊富で内容の整理ができるが、主語や述語、「いつ」「どこで」の使い方を間違える場面もある。授業中に学んだ内容を使用した文をその場でつくることはできるが、他の場面では自信がなくやりたがらない傾向が強く、繰り返しの学習で自信をつける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを用いて、2コマ漫画や写真を説明する文章をつくる。(知、技) ・2コマ漫画から、相手に伝えるために必要な情報を考える。(思判表) 【3-(1)、(2)】 ・友達の考えた文章の内容に興味をもち、自分との違いに気付く。(学、人) 【6-(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語、気持ちを表す言葉「いつ」や「どこで」を使って、2コマ漫画を説明する文章をつくる。(知、技)

C	<p>学習意欲はとて高く、板書を書き写すことや漢字を書くなどの学習が得意である。</p> <p>気持ちの読み取りが苦手で、前単元では気持ちを表す言葉の理解の不十分さから、一人ぼっちのスイミーに対して「嬉しい」と表現する場面が見られた。日常生活の場面では、気持ちを表す言葉と説明が書いてあるカードを用いて感情に関する学習を行っており、本人も意欲的に使用している。</p> <p>語彙が少ないことや内容の整理が苦手なことから、文章を書く際には、「〇〇頑張りました」や「△△できました」などの表現を箇条書きで書くことが多く、「いつ」「どこで」の整理も苦手としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを用いて、2コマ漫画や写真を説明する文章をつくる。(知、技) 2コマ漫画から、相手に伝えるために必要な情報を考える。(思判表) 【3-(1)、(2)】 友達の考えた文章の内容に興味をもち、自分との違いに気付く。(学、人) 【6-(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> 主語や述語、気持ちを表す言葉などを使って、2コマ漫画を説明する文章をつくる。(知、技)
D	<p>心臓に病気を抱えており、学校への登校ができていない。本人の学習への意欲は高いため、Face Timeのアプリを使用してオンラインで授業に参加をしている。画面越しに発言をしたり、ロイロノートでワークシートのやり取りをしたりしながら授業に参加している。</p> <p>前単元では、「嬉しいと書いてあるけど一人ぼっちのままだから寂しいのは変わらないと思う」とスイミーの気持ちを推測することができていた。</p> <p>内容の整理は得意で、語彙も豊富である。「いつ」「どこで」などの情報の整理は一人では難しい場面が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主語や述語、気持ちを表す言葉、「いつ」「どこで」などを用いて、2コマ漫画や写真を説明する文章をつくる。(知、技) 2コマ漫画から、相手に伝えるために必要な情報を考える。(思判表) 【3-(1)、(2)】 友達の考えた文章の内容に興味をもち、自分との違いに気付く。(学、人) 【6-(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> 主語や述語、気持ちを表す言葉などを使って、2コマ漫画を説明する文章をつくる。(知、技)

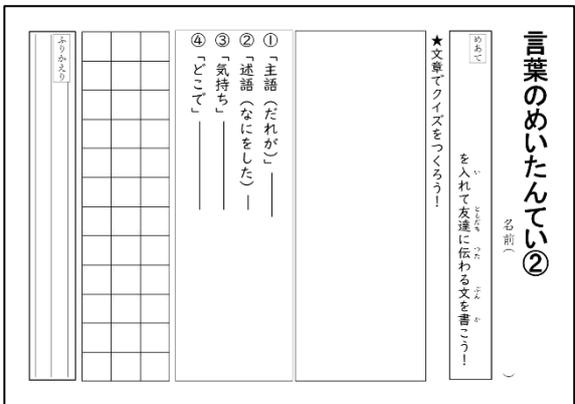
(3) 配置図 < 中学部1・2年教室 >



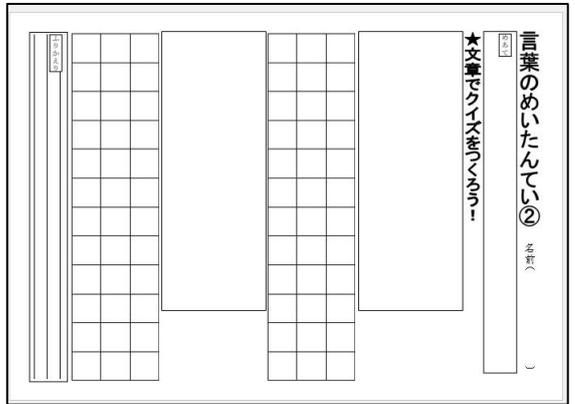
(4) 板書計画



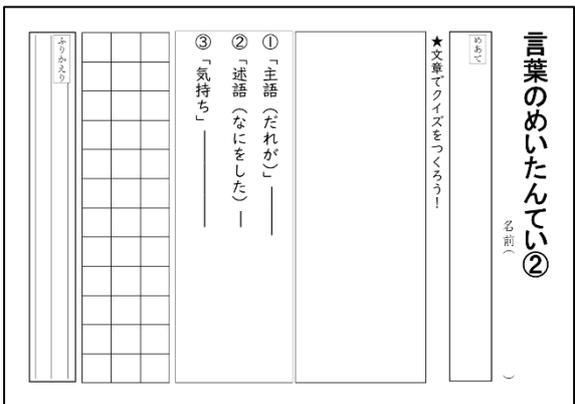
(5) 参考資料



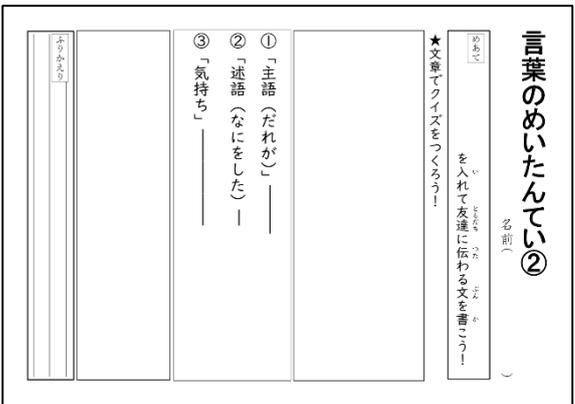
ワークシート (生徒A)



ワークシート (生徒B)



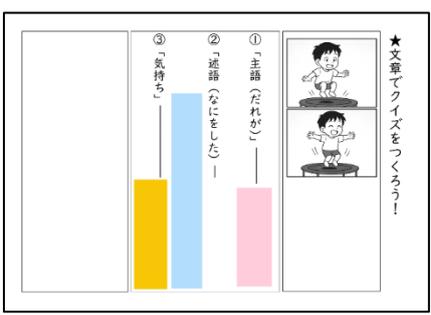
ワークシート (生徒C)



ワークシート (生徒D)



オンラインでの授業の様子



課題カード (生徒C)



気持ちカード

(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、本時の目標の達成に関連した自立活動の区分、項目。
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (5)	1 始めの挨拶をする。 (1)挨拶をする。 (2)めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを意識することができるように、前時の授業内容を確認しながら、生徒からキーワードを引き出し、めあてのポイントの部分を空白にして全員で考える。 ・生徒Dがオンラインで学習に参加することができるように、ロイロノートでワークシートを配付する。【1—(1)、(2)】 	ワークシート i P a d
めあて ポイントを入れて友達に伝わる文を書こう！			
9:50 (7)	2 2コマ漫画を基にポイントを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2コマ漫画から必要な情報を考えるときに手掛かりとなるように、ポイントカードの内容を確認しながら黒板に掲示する。 	ポイントの 掲示
9:57 (15)	3 2コマ漫画を説明する文章を書く。 (1)ロイロノートで文章をつくる。 (2)ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態に応じた課題に取り組むことができるように、説明文を書く際の課題の2コマ漫画を「主語と述語で書くことができるもの」や「気持ちも書く必要があるもの」など生徒によって違う学習課題にする。 ・書き直したり、内容を変えたりするなどの考える時間を十分に確保することができるように、ロイロノート上で文章を考える。【6—(2)】 ・生徒が自信をもって取り組むことができるように、「面白いですね」や「いいですね」など前向きな言葉掛けをする。【2—(1)】 ・どのように文章の内容を考えたのかを確認するために、「どうしてそう考えたのですか？」のような発問をする。 ・Cが文章をつくる際の手掛かりとすることができるように、「主語」を「だれが」や「述語」を「なにをした」のような言葉に置き換えて伝える。 ・文章を書く際に情報を整理することができるように、主語や述語、気持ちを表す言葉などの欄をロイロノート上のカードに設ける。 ・Dがワークシートの入力を行いやすいように、マス目を消したワークシートを用意する。【1—(2)】 	2コマ漫画のカード
10:12 (15)	4 どの2コマ漫画を書いたかのクイズをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の説明文を見ることができるように、事前に送られたカードをモニターで提示する。 ・相手に伝わる文章をつくることができているかを確認することができるように、モニターに映し、ポイントが含まれているかを確認する。 	
10:27 (8)	5 終わりの挨拶をする。 (1)振り返りを書く。 (2)次時の確認をする。 (3)挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習で本時の内容を振り返ることができるように、ワークシートに本時で分かったことや気付いたことを記入する時間を設定する。 	

(7) 評価

〈生徒〉・ポイントを入れて、2コマ漫画を説明することができたか。

〈教師〉・生徒が主語や述語、気持ちを表す言葉等のポイントを入れて、文章をつくるための学習活動や掲示等の手立ては適切であったか。

(8) 個別の目標（本時）に関わる支援

生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立てと 【関連する自立活動の区分、項目】	支援を行う学習活動
A	・視覚情報の処理に時間がかかることが多いため、一人で記入することができるように、毎時間同じ様式のワークシートを使用する。【4－(2)、(3)】	3 文章をつくる
B	・新しい学習への抵抗感を減らすことができるように、「前にやったことがありますね」と既習事項であることを伝える。【2－(1)】	3 文章をつくる
C	・どんな気持ちかを一人で考えることができるように、生活単元学習で使用している感情のカードを用意する。【3－(2)】、【6－(1)】 ・一人でワークシートを記入することができるように、ワークシートの形式と板書を一致させる。【4－(2)】	3 文章をつくる
D	・授業に主体的に参加することができるように、ワークシートをオンラインで配付し、発言を促す。 【1－(1)、(2)】、【2－(3)】 ・どんな気持ちかを一人で考えることができるように、自分だったらどう感じるかを発問する。 【3－(2)】、【6－(1)】	3 文章をつくる

高等部 国語科Aグループ 学習指導案

日時 : 12月18日(木)2校時
場所 : 高2教室
生徒 : 高等部2、3年 5名
指導者 : 杉渕 美帆子

1 単元名 豊かな表現で伝え合おう ～テーマについて話し合う～

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由、事例など、情報と情報の関係を理解する。(知・技)
- (2) 立場や意図を明確にして、考えを伝え合う。(思判表)
- (3) 互いの考えとそれを支える事例を比較し適切か検証することを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。(学・人)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

2年生男子1名、女子1名、3年生男子1名、女子2名の計5名の学習グループである。どの生徒も、友達と会話を楽しむ、教師に困り事を相談するなど、言葉を使って気持ちのやりとりをすることができる。また、指示や連絡を聞いて理解する、出来事を報告するなど、社会生活に必要な言葉でのやりとりがある程度でき、作業学習や校内現場実習で職員や職場の方々と比較的円滑にコミュニケーションをとることができた。文法や敬語、話し言葉と書き言葉の違いなど、言語の知識もある程度備わっており、相手や状況に応じて必要な言葉を選んで使うこともできる。

一方で、言葉でのコミュニケーションが十分ではないと思われる場面も多い。例えば、出来事や状況の一つの見方から捉えて、相手の思いを正しくくみとることが難しいことから、仲間との関係に不和が生じ、会話を重ねても修復できずこじれてしまう場面が見受けられた。また、特定の行動や発言から相手の人柄を誤解してしまう生徒や、ある不安な状況について少ない根拠から思い込みを膨らませてしまい望ましい行動がとれなくなる生徒もいた。

今後よりよい人間関係を築きながら社会生活を送るためには、言葉でコミュニケーションをとる力が重要となる。そのためには、言葉を使って考える力が必要である。事実として伝えられた情報を比較し、適切な根拠となり得るか考え直す経験を積むことで、物事を適切に受け止めようとする態度を育みたい。また、様々な情報の中から得た事実を事例として論理的に思考し、自らの意見として、筋道をたてて穏やかな言葉で相手に伝える力を育みたい。様々な情報を簡単に入手できる現代社会において、まもなく社会生活を送る生徒たちが、その情報を鵜呑みにせず正しく捉え、選んで活用しようとする態度を育てたい。

(2) 単元について

本単元は、自他の立場や意見を尊重し合いながら、理由とそれを支える事例を挙げて、考えを伝え合う力を育むことを目的としている。これまでの学習で生徒たちは、表現の幅を広げるための語彙を増やし、それを駆使して互いに思いや考えを伝え合い、コミュニケーションの楽しさを実感している。言葉で語り、自分の気持ちが伝わり、共感を得られるのはうれしいことである。さらに、自分と異なる見方や考え方をする他者を認めたり、異なる考えや意見を受け止めた上で吟味したりする力を備えることで、一段階進んだコミュニケーションができるよう本単元を設定した。テーマに対する意見や考えを伝え合う活動を通して、自分とは異なる意見や考えに接したとき、「否定された」と捉えるのではなく、まずは受け止めた上でその根拠となる事例を吟味することができるように、事実と意見の関連、具体例の挙げ方、伝える内容が適切かどうかを分析する方法など、段階的に学習を重ねる。お互いの意見とその理由を理解し、比較して、裏付けとする事例が適しているか効果的かを検証する。その上で、最終的な自分の考えをまとめ、言葉で表現する。伝え合う活動を経て、他者から得た情報によって自分の考えが変容したとき、またはより説得力のある根拠を得て強化されたとき、考えを広げたり深めたりすることができたと評価することができる。伝え合う学習を繰り返すことは、情報を検証しながらお互いの意見や考えを認め合い、周囲の人との関わりをより豊かなものにすると考ええる。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・前時までの学習を振り返ることができるように、導入の際に前時までの学習内容をホワイトボードなどに掲示する。(主)
- ・学習への見通しをもって活動に取り組めるよう、本時の学習内容を板書に示す。(主)
- ・自分の考えに自信をもち、発言しやすくするために、同じ立場の人と考えを比較したり相談したりする時間を設ける。(主・対)

- ・お互いの考えの良さや課題に気付くことができるように、異なる立場の人同士が質疑応答する時間を設ける。(対・深)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・お互いの考えを整理して考えやすくするために、発言の内容をメモしたカードを電子黒板に映し、それぞれの意見と理由、それを支える事例を比較できるようにする。(対・深)
- ・同じ立場の人と相談することや、異なる立場の人と意見交換することがしやすいようにお互いの顔や資料が見える座席配置にする。(対・深)

〈教師の働き掛け〉

- ・主体的な活動するために、単元の始めに生徒自身で話し合いたいテーマを考え、選択する時間を設定する。(主)
- ・お互いの意見を比較しながら話し合えるよう、テーマに関連した資料をあらかじめ準備し、理由を支える事例として参考にするよう促す。(対)
- ・生徒同士が敵対せず活発に意見を伝え合う雰囲気をつくるために、話合いの際の立場や座席を意図的に教師が指定する。(主・対)
- ・伝えたい内容を抵抗なく話すことができるよう、発言する際の話型をカードにして生徒の手元に置く。(主・対)
- ・生徒が様々な考えに触れテーマについて考えを広げたり深めたりできるように、話し合いが円滑に進まない時には、悩んでいる生徒に教師が助言する。(深)

4 指導計画(総時間数 10時間)

単元題材名、学習内容	目標	時数	関連する学習指導要領の項目
○豊かな表現で伝え合おう ・事実と意見	・事実と意見、原因と結果など、情報同士の関係について理解し、考えを支える事例の妥当性や説得力を検証する。(知・技)	2時間	1段階【知・技】 イ(ア)
○豊かな表現で伝え合おう ・比較と分類	・伝える目的に応じて情報を集める。(知・技) ・比較や分類をして、必要な情報を選ぶ。(思判表)	1時間	1段階【知・技】 イ(イ) 1段階【思判表】 A聞くこと・話すこと イ
○豊かな表現で伝え合おう ・具体化・抽象化	・伝える目的に応じて情報を集め、具体例を示すことで、説得力のある意見を述べる。(思判表)	1時間	1段階【思判表】 A聞くこと・話すこと イオ B書くことウ
○豊かな表現で伝え合おう ・テーマについて話し合う	・互いの立場や意図を明確にしなが、テーマについて事例に基づいた理由を述べながら話し合う。(思判表) ・自他の意見と理由を参考にして、考えを広げたり深めたりする。(学・人)	6時間 (本時5/6)	1段階【思判表】 A聞くこと・話すこと イエオ B書くこと アウ

5 本時の計画（総時数 9 / 10）

(1) 全体の目標

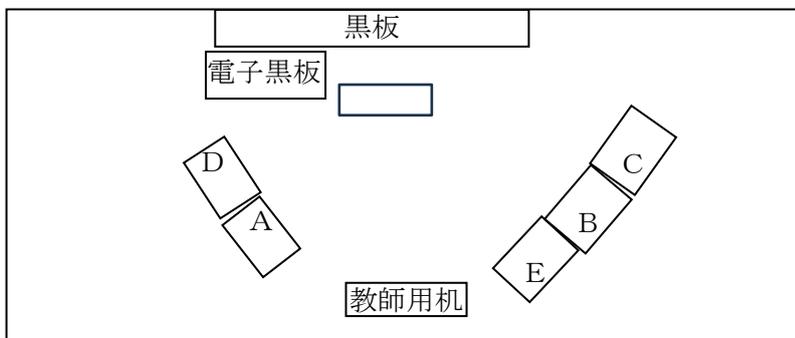
- ・立場や意図を明確にし、支える事例を検証しながら考えを伝え合う。（思判表）
- ・自他の考えを支える事例を吟味することで、考えを広げたり深めたりする。（学・人）

(2) 個別の目標

氏名	生徒の実態と学習の様子	単元（題材）の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】	本時の目標 【関連する自立活動の 区分、項目】
A	自分の意見や考えを論理的に伝えることや、他者が伝えようとしている考えを言葉の表面的な意味で捉えてしまうことが多く、客観的に捉えることが苦手である。安心できる人間関係の中では、積極的に自分の思いや考えを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを伝えるためには、理由と事例が大切だと理解する。（知・技） ・自他の立場や意図を理解して、考えを伝え合う。（思判表） ・互いの考えや事例を吟味して、自分の考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【3－(2)】【6－(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、事例を明らかにして効果的に伝える。（思判表） ・他者の考えを受け止めてその理由と事例を客観的に吟味することで、考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【6－(5)】
B	相手との関係性を心配して遠慮してしまい、自分の意見や考えを積極的に伝えることは少ない。誰かの発言の後で発言することが多い。興味のある内容については意欲的に話し合い、学習に向かうことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・理由と事例によって相手に考えを伝わりやすくなることを理解する。（知・技） ・自他の立場や意図を理解し、考えが伝わりやすい事例を挙げながら話し合う。（思判表） ・互いの考えや事例を吟味して、自分の考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【3－(2)】【6－(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、事例を示しながら伝える。（思判表） ・他者の意見についてその理由を吟味することで、考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【6－(5)】
C	物事を客観的に捉えることや、他者の意見を吟味する力に課題があり、自分の思いと異なる相手の意見の取り入れることが難しい。積極的に学習に取り組むことが多く、自分の考えたことや意見を、意欲的に周囲に伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを伝えて相手の理解を得るためには、理由と事例を吟味する必要があることを知る。（知・技） ・自他の立場や意図を理解し、発言の内容を比較しながら話し合う。（思判表） ・自他の考えを受け止め、事例を吟味した上で、自分の考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【3－(2)】【6－(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを、理由を示しながら論理的に伝える。（思判表） ・様々な考えについてその理由を吟味することで、考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【6－(5)】
D	相手が伝えた内容を自分に都合よく捉えてしまうことが多い。感情的になると、相手や状況に合わせた話し方が難しいことや、論理的に伝えられないことがある。自分から意欲的に興味のあることを調べることや、意見や考えを積極的に伝えることができ	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のある意見には、理由と事例が必要だと理解する。（知・技） ・異なる立場や考えを受け止め理解した上で、言葉を選びながら自分の考えを伝える。（思判表） ・互いの考えや事例を吟味して、自分の考えを広げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを、説得力のある理由を示しながら伝える。（思判表） ・他者の意見を受け止めてその理由を様々な視点から吟味することで、考えを広げたり深めたりする。（学・人） 【3－(1)】【6－(5)】

	る。	たり深めたりする。 (学・人) 【3-(1)】【3-(2)】 【6-(5)】	
E	自分の意見を積極的に伝えることは少ないが、周囲に求められると考えて発言することができる。学習への意欲が高く、与えられた課題に一生懸命取り組もうとすることが多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見は、理由と事例に支えられていることを理解する。(知・技) ・自他の立場や意図を理解し、自分の意見に理由と事例を加えて伝える。(思判表) ・互いの考えや事例を理解し吟味することで、自分の考えを広げたり深めたりする。(学・人) 【3-(1)】【3-(2)】 【6-(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと理由を、事例を示しながら伝える。(思判表) ・他者の意見の理由やそれを支える事例を理解し、考えの参考にする。(学・人) 【3-(1)】【6-(5)】

(3) 配置図 <高等部2年教室>



(4) 板書計画

豊かな表現で伝え合おう
〜テーマについて話し合おう〜

学習課題
どのような事例があれば、考えが伝わるのだろうか。

テーマ
学部集会お楽しみコーナーに提案するべき種目は氷鬼か風船パレーか。

討論のしかた
① 氷鬼にする理由・事例
② 風船パレーにする理由・事例
③ 相談
④ 質問・反論
⑤ 最終的な考え

テーマについての
説明・図

まとめ
相手に考えを伝えるときには、()
事例があると伝わりやすい。()
ふりかえり

(5) 参考資料 (教科書や教材等)

別紙参照

(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、本時の目標の達成に関連した自立活動の区分、項目
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働き掛け、手立て	準備物等
9:45 (1)	1 始めの挨拶をする。	・授業への心の準備ができるよう、学習内容を見通せる板書を作る。	i P a d 電子黒板
9:46 (3)	2 学習課題と学習内容の確認	学習課題 どのような事例があれば、考えが伝わるのだろうか。 ・前時までの学習内容を振り返り、本時につなげられるよう、学習した内容をホワイトボードや電子黒板で示す。	
9:49 (24)	3 テーマについて話し合う。 (1)氷鬼を提案する理由と事例 (2)風船バレーを提案する理由と事例 (3)相談タイム (4)質問・反論	テーマ 「学部集会お楽しみコーナー」に提案すべき種目は、氷鬼か風船バレーか？ ・見通しをもって学習に取り組むことができるよう、予め自分の考えと、理由を支える事例をロイロノートの付箋にメモしておき、電子黒板やi P a dで見られるようにする。 ・事実に基づいて話し合うことができるよう、話し手は、資料を電子黒板に映す。 ・話すことへの苦手意識を減らすため、話し方の例を予め示し、必要に応じてカードを見ながら話すことができるようにする。 ・自分の意見や理由に自信をもって話すことができるよう、同じ立場の生徒同士が話し合える時間を設定し、席も近くなるよう配慮する。【3－(1)】	話し方の例 カード
10:13 (10)	4 テーマについての最終的な自分の考えを確かめる。	私は氷鬼に賛成だ。なぜなら、……からだ。～という意見もあるかもしれない。しかし、……ので、……と考える。 私は風船バレーに賛成だ。はじめは、氷鬼と考えていたが、…という事例を知り、…に気付いたため、考えを変えた。 ・考えの変容や深化を見とれるよう、記録のしかたの型をいくつか例として示す。 ・自他の発言の内容を踏まえて最終的な考えをまとめられるよう、使用したメモや資料をi P a dで見られるようにする。 【3－(1)】	
10:23 (1)	5 お互いの考えを見合う。	・お互いの考えや、自分の考えの変容が見られるように、最終的な考えをロイロノートの提出箱に提出し、共有して、視覚的に見取れるようにする。【6－(5)】	
10:24 (6)	6 まとめをする。 考えを言葉で伝えるためにはどんな事例を挙げると効果的か、理解したことをまとめる。	考えを伝えるときには、(このような)事例があると伝わりやすい。 ・お互いの意見と理由の伝え方について客観的に振り返ることができるように、複数の観点を示す。【6－(5)】	
10:30 (5)	7 振り返りをする。 今後の生活に生かすことを意識しながら、学んだことを振り返る。	・前時までの授業での気づきを本時の気づきに生かせるよう、記録を見返しながら記入することを伝える。	振り返りシート
	8 終わりの挨拶をする。		

(7) 評価

- 〈生徒〉・互いの立場や意図を明確にしながら事例を挙げて考えを伝え合い、最終的な考えをまとめているか。
- 〈教師〉・生徒が目当てを達成するための教師の手立てや、個に応じた教師の支援は適切であったか。

(8) 個別の目標（本時）に関わる支援

生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て 【関連する自立活動の区分、項目】	支援を行う学習活動
A	<ul style="list-style-type: none">異なる立場からの考えを受け止め、事例に基づいて考えられるよう、同じ意見の仲間と相談して検証する時間を設ける。【3-（1）】話合いの中で述べられた内容を踏まえて自分の考えをまとめられるよう、メモや資料をiPadで見られるようにする。【6-（5）】	テーマについて話し合う 自分の考えをまとめる
B	<ul style="list-style-type: none">発言するときに、内容を整理して考えを述べるができるように、予め自分の考える理由や事例を画面上に提示するとともに、話形を示す。【3-（1）】最後に自分の考えをまとめるときに、話合いで述べられた内容を踏まえて理由を書くことができるように、全員のメモや資料をiPadで見られるようにする。【6-（5）】	テーマについて話し合う 自分の考えをまとめる
C	<ul style="list-style-type: none">理由や事例が適切かどうかを客観的に考えられるように、テーマについて予め調べ、iPadに参考資料を準備する時間を設ける。【3-（1）】お互いが述べた考えと理由を客観的に捉えられるよう、事例のメモや資料をiPadで見られるようにする。【6-（5）】	テーマについて話し合う 自分の考えをまとめる
D	<ul style="list-style-type: none">事例に基づいて冷静に意見を述べるができるよう、メモや資料を話す内容を予め整理する時間を設け、話形を示して練習しておく。【3-（1）】事例に基づいて客観的に考えられるよう、話し合う際の立場と座席を意図的に設定する。【6-（5）】	テーマについて話し合う 自分の考えをまとめる
E	<ul style="list-style-type: none">話合いで考えを積極的に述べるができるように、伝えたい内容のメモを予め準備するとともに、話形を示し話すことへの抵抗を減らす。【3-（1）】話合いの中で述べられた内容を踏まえて自分の考えをまとめられるよう、メモや資料をiPadで見られるようにする。【6-（5）】	テーマについて話し合う 自分の考えをまとめる